

大震災・復興ニュース(第28報)

平成23年10月28日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県震災復興計画の策定について

宮城県議会9月定例会において計画案が可決されたことから、宮城県震災復興計画が公表されました。

計画ではその基本理念として、災害に強く安心して暮らせるまちづくり、県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興、「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」、現代社会の課題を解決する先進的な地域づくり、壊滅的な被害からの復興モデルの構築、の5項目を掲げています。

詳しくは県のホームページ(下記アドレス)をごらんください。

<http://www.pref.miyagi.jp/seisaku/sinsaihukkou/keikaku/index.htm>

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年10月19日～10月25日
- 2 測定分析機関 いであ(株)、(財)日本冷凍食品検査協会、(財)日本分析センター
- 3 測定結果 放射性ヨウ素はすべて不検出であり、放射性セシウムも国が定めた暫定規制値を下回り、安全性に問題がないことが確認された。

水産物(漁獲日 平成23年10月14日～10月24日)

(単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
スケトウダラ	宮城県沖	9.2	マサバ	仙台湾	11
マダラ	宮城県沖	20.7	シロサケ	仙台湾	不検出
スルメイカ	三陸南部沖	不検出	マアナゴ	宮城県沖	17.3
ババガレイ(ナメガレイ)	宮城県沖	13.9	ヨシキリザメ	北海道・青森県沖 太平洋	5.1
エゾイソアイナメ(ドンコ)	宮城県沖	15.3	アオザメ	北海道・青森県沖 太平洋	21.5
カタクチイワシ	三陸南部沖	7.3	カツオ	日本太平洋沖合北部	13.2
アワビ	石巻湾	4	サンマ	北海道・青森県沖 太平洋	不検出
ナマコ	石巻湾	不検出	ギンザケ(養殖)	川崎町	不検出

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値

放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム 500ベクレル/kg

< 水産漁港部からのお知らせ >

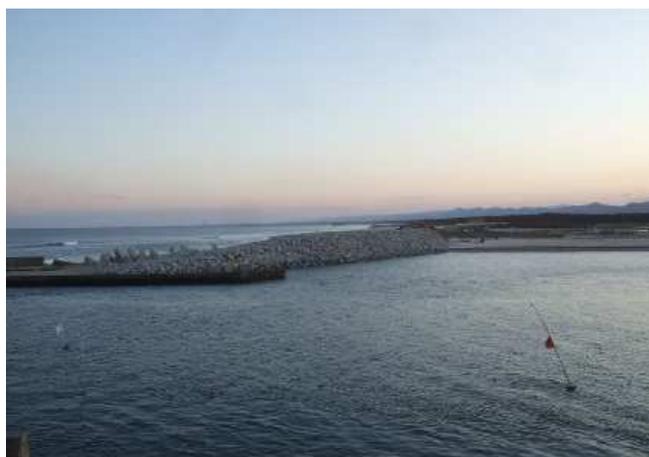
「がんばろう塩釜 水産復興フェア」開催のお知らせ

塩釜の水産加工品の販売促進を図るため、イオンリテール(株)の協力により、11月3日(木)から6日(日)まで、県内のイオン8店舗において塩釜市内の水産加工業10数社による水産加工品の販売・PRを実施する。

かつおたたきや塩たら、おでんセット等の練り製品、ほっけ・さばの開きといった塩干品など、豊富な種類の加工品販売を予定しており、特にイオン利府店においては水産販売コーナーの他に催事場を設け、むすび丸によるPRも予定している。

漁港の応急復旧状況

- ・荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、北堤防がTP+5.0mの高さで約900mの築堤及び海側の捨石被覆作業が完了し、現在、河川堤防との取付部を施工中で、今月末の完成予定である。
- ・南堤防の約800m区間については、破堤した導流堤部約80mについての閉塞作業が完了し、TP+2.0mからTP+5.0mの築堤工事を11月下旬の完成を目指し継続施工中である。



荒浜漁港南堤防復旧状況

2 管内の復興に向けた動き

< トピックス >

塩釜からのワカメ種苗出荷が始まる

塩釜市漁協の組合員が陸上採苗したワカメ種苗の県内への出荷が始まった。

この種苗は陸上でタンク採苗後9月下旬に松島湾内に沖出ししたもので、沖出し後は順調に生育し現在は葉長15~20mmとなっている。

10月24日は表浜に向けた種苗約500枠の出荷が行われ、志津川や気仙沼地区など県北部にも順次出荷されている。



ワカメ種苗出荷の様子

閉上でコタマガイの入札が始まる

10月24日、閉上魚市場で震災後初となるコタマガイの入札が行われた。当日の水揚げは支所所属の誠丸で、水揚量は106kg、貝の大きさは例年並みであった。

入札は仲買3社が集まり、移動式テントで行われ、単価は529円/kgと通常の2倍ほどの高値となった。



(写真は河北新報より抜粋)